

運と『潜在意識』による判断

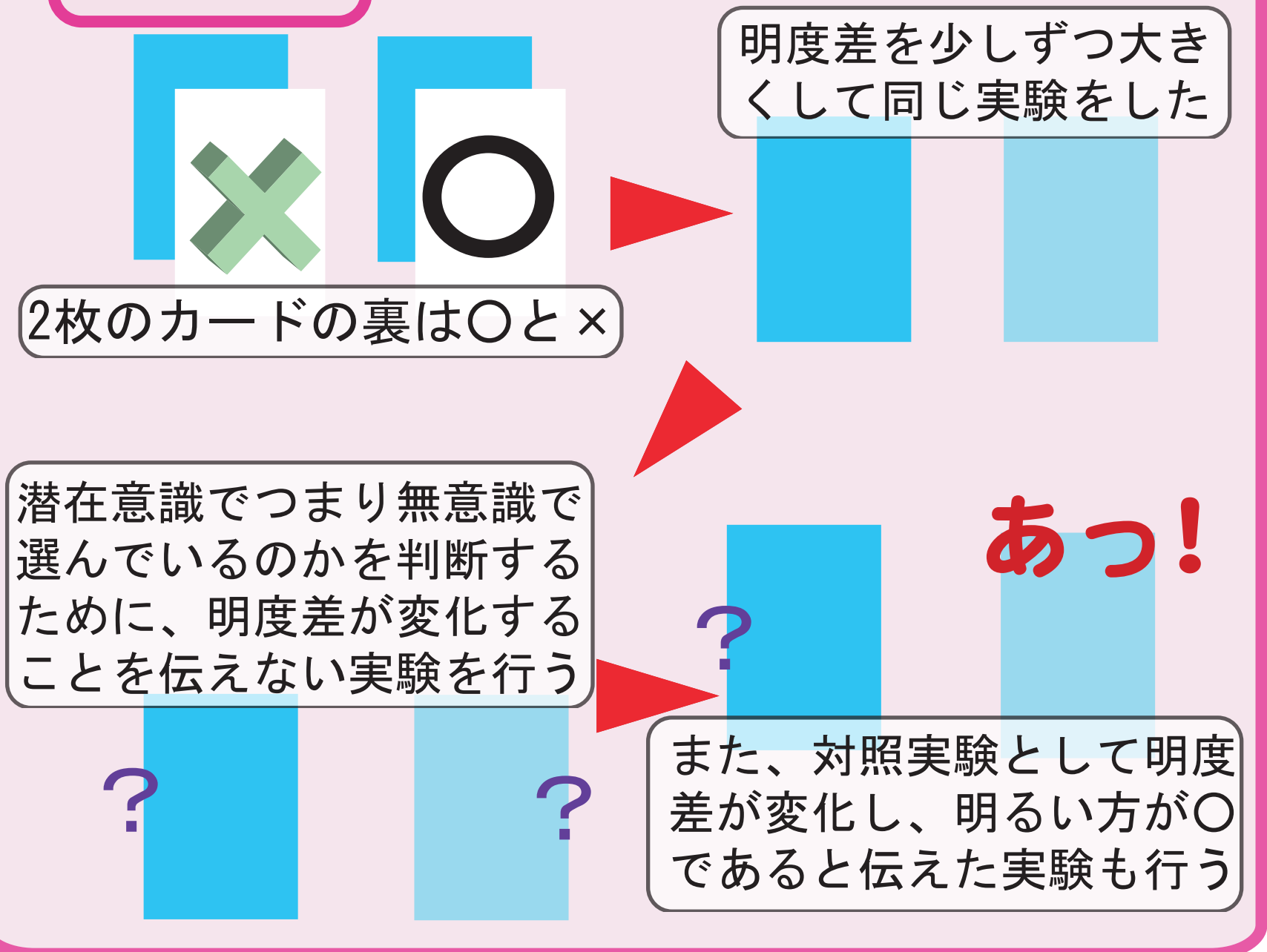
Luck and subliminal judgment.

氏名 飯岡 祐貴 平原 靖之 近藤 久貴 平野 由貴 松矢 安展 榛澤 祐哉
Name Yuki Iioka Yasuyuki Hirahara Hisataka Kondo Yuki Hirano Yasunobu Matsuya Yuya Hanzawa

背景と目的

前期のランダムに出される裏が○と×の2枚のカードから一枚を選ぶ実験にて、統計的には起こりえないデータが得られると仮定したが、期待する結果を得られなかった。また、その実験において被験者はより単純化された実験からできるだけ多くの情報を得ようとする傾向を見て取れた。そのことに着目し、視覚の情報を操作することにより、人は潜在意識で情報を得ることができると仮説を立てた。また、この仮説を実験を行い検証することを目的とした。

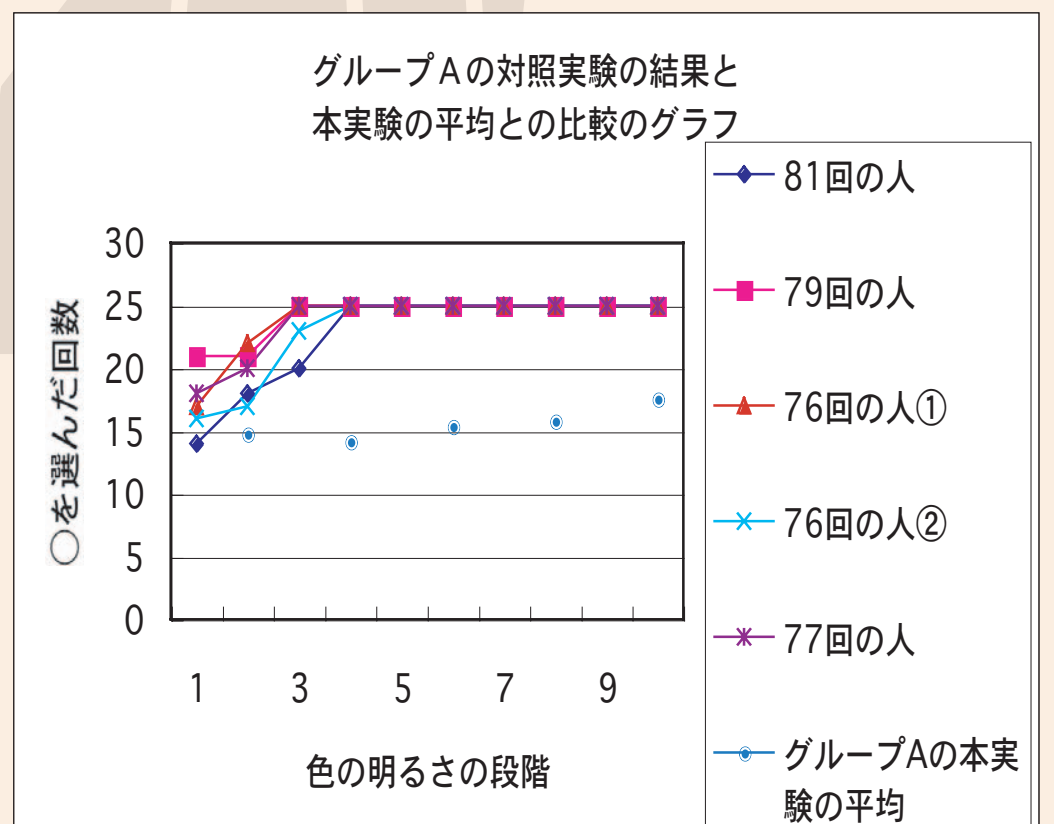
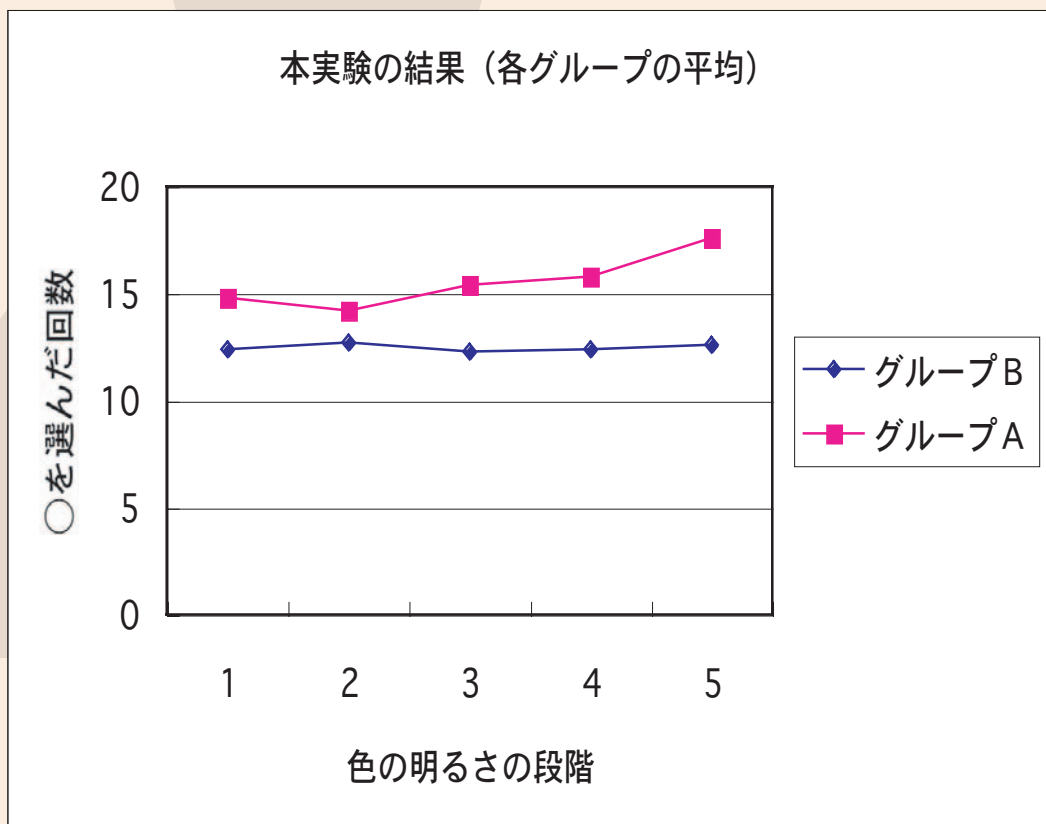
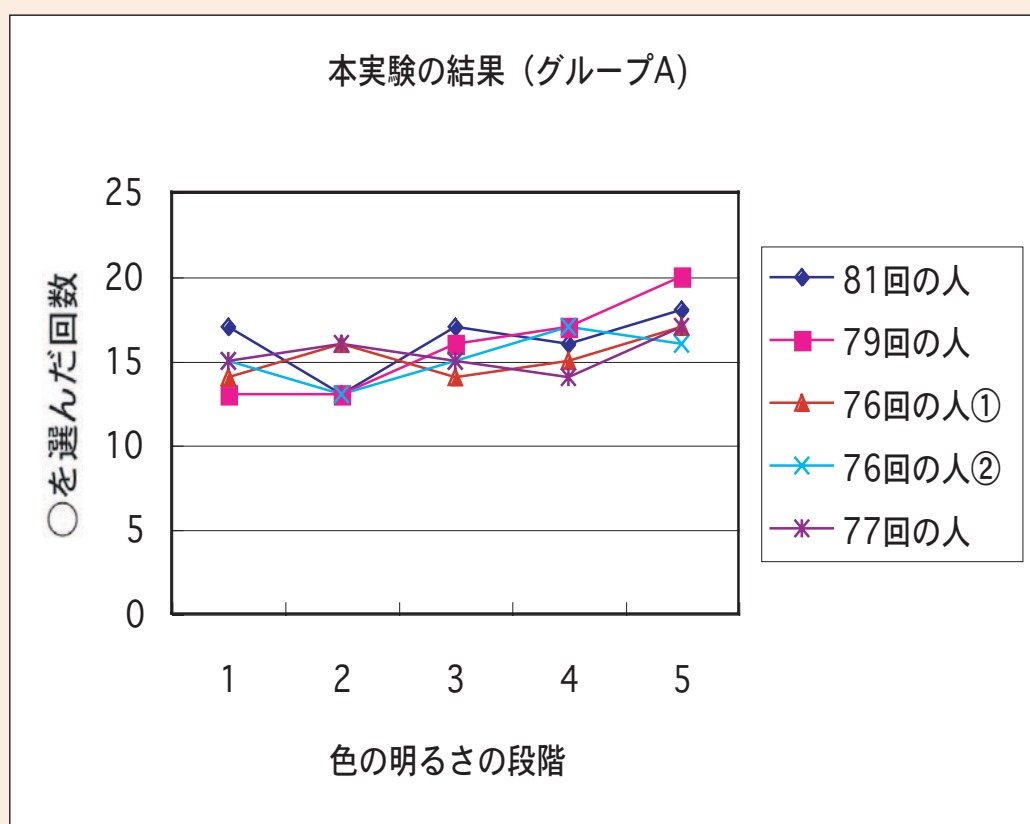
実験



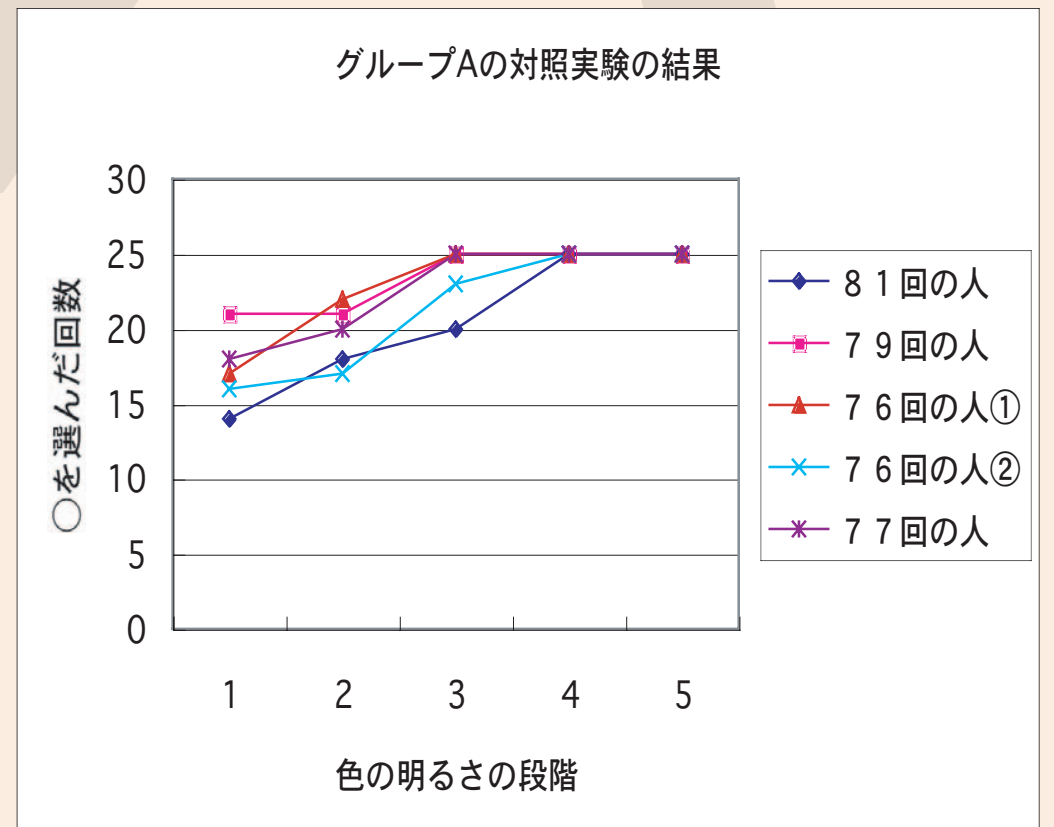
解析

54人の被験者にそれぞれ2種類、各125回の実験を行った。統計的に起こりる範囲は50回以上75回以下だが、この範囲を逸脱した結果が5人の被験者で得られた。そこから得られたデータを集計し比較したところ、よりカードが明るくなったときの正解率が高いことがわかった。また、この5人は対照実験において明度差を見分けることができています。

結論



実験結果から、統計的に逸脱した結果を出した5人の被験者は顕在的に色の明るさの違いに気付いていなかったにも関わらず、潜在的には色の明るさの違いと明るい方が○であるというパターンに気づき、判断しこの結果を出したと考えられる。このことより、『期待値以上または期待値以下の結果が、統計的に起こりえる”ばらつき”の域から脱する』ほどの偏った結果を本人が自覚なしに情報を得て出したと考えられる。このようなことを見て、人は客観的に『運が良かった』と見ているのではないかと考えた。今回、我々が行ったような潜在意識で情報を得て、偏った結果を出すということが、運を左右する1つの要因になっている可能性は十分にあるということがわかった。



上の4つのグラフは、実験で得られたデータを解析したものである。